



一般社団法人 電波産業会
Association of Radio
Industries and Businesses

No.1471 2025 年 10 月 27 日

10 月は「受信環境クリーン月間」です

受信環境クリーン中央協議会では、例年 10 月 1 日から 10 月 31 日までの間を「受信環境クリーン月間」と定め、放送電波受信障害防止に向けた集中的活動を実施しています。会員の皆様も電波障害の防止になお一層のご協力をお願いします（詳細は ARIB ニュース No.1463 2025 年 9 月 1 日を参照ください）。

ARIB の動き

ITU-R WP 5D 第 50 回会合の概要報告

1 会合の概要

WP 5D（Working Party 5D：5D 作業部会）は、ITU-R の SG 5（Study Group 5：第 5 研究委員会）の下に設置され、IMT（International Mobile Telecommunications：移動通信システム）の国際標準化に関する検討を行う専門家会合です。年 3 回程度開催されており、現在の議長は NTT ドコモの新博行氏です。

日 程：2025 年 10 月 7 日（火）～10 月 16 日（木）

場 所：スイス・ジュネーブ ITU 本部（Web 会議併用）

参加者：69 か国および各団体／機関から 637 名

日本代表团として総務省新世代移動通信システム推進室係長の伊藤梓氏を団長に 38 名（当会からは佐藤（拓）担当部長、金本主任研究員の 2 名が参加）

2 主要結果

(1) General Aspects 関連

- ① 新報告案「IMT 及びその他の陸上移動通信技術を利用した空対地通信に関する報告 ITU-R M.[IMT.ATG]」について、2 件の寄与文書を作業文書に取り込み更新を行いました。しかしながら、IMT 以外の技術のセクションへの対応方法について議論になり、章構成を技術ごとに分けるよう見直すことになりました。2026 年 10 月会合での完成に向けて引き続き更新作業を行います。

(2) Spectrum Aspects & WRC Preparations 関連

- ① WRC-27 議題 1.7 関連について、共用・両立性を検討した多くの寄与文書が入力され、干渉検討モデルやパラメータなどの具体的な議論が、周波数帯毎に設置された各ドラフティンググループで行われました。また CPM テキストの骨子案が作成されましたが、今会合の中で具体的な議論がされていないため、未合意文書であることが注記され、次回会合で議論することとなりました。

- ② 新報告案「7145-7190MHz 帯における宇宙研究業務（深宇宙）の地球局と 6425-7125MHz 帯で運用する IMT 無線局との調整手法に関する報告 ITU-R M.[SRS-IMT]」ならびに「6425-7125MHz における固定業務局と IMT 無線局との調整手法に関するガイドライン ITU-R M.[FS-IMT COORDINATION]」が完成し、2025 年 12 月の SG 5 会合に上程されることになりました。
- ③ 地上系 IMT 端末と衛星との直接通信（DC-MSS-IMT）について、DC-MSS-IMT システムからの地上 IMT システムの保護に関する規制条件の策定に関する議論が続けられましたが大きな進展が無い一方、WP 5D で検討を進めるための WP 4C からの技術情報が十分でないという指摘があり、議論の結果、WP 5D/WP 4C 両議長が連携して進めることについて確認されました。

(3) Technology Aspects 関連

- ① 無線インタフェース技術勧告 ITU-R M.2150-2 及び ITU-R M.2012-6 の改定について、外部標準化団体からの標準規格に関するハイパーリンク情報の入力を改定草案に反映し、勧告改定案として 2025 年 12 月の SG 5 会合に上程されることとなりました。
- ② IMT-2030 無線インタフェースの評価方法を示す新報告について、日本寄与文書を含む 19 件の入力があり、技術性能要求条件に対する評価方法の詳細手順などに関する検討結果を作業文書に反映し、次回会合に持ち越しました。本新報告は 2026 年 6 月会合で完成する予定です。
- ③ IMT-2030 無線インタフェースの技術性能要求条件を示す新報告には日本寄与文書を含む 22 件の入力があり、日本が提案した Resilience and Extended Connectivity が技術要求条件の 1 つとなる一方、Interoperability 及び Security は技術要求条件としないこととなりました。更にピーク周波数効率、接続密度、モビリティ（の一部）及び遅延については目標数値について合意しました。これらの結果を文書に反映し新報告草案に格上げしました。本新報告は次回会合で完成する予定です。
- ④ IMT-2020 無線インタフェース技術の不要輻射特性新勧告 2 件（基地局および移動局）は、2024 年 12 月の SG 5 会合で採択・承認の手続きが行われず WP 5D に差し戻されていましたが、本会合にて日本などの寄与文書を元に新勧告案の修正作業が完了しました。また、対流圏ダクト効果による IMT ネットワークの干渉を軽減する方法を示す新報告についても、寄与文書を元に文書を更新して新報告案に格上げしました。これらは 2025 年 12 月の SG 5 会合に上程されることになりました。

3 次回会合スケジュール

2026 年 2 月 3 日（火）～12 日（木）にスイス・ジュネーブ（Web 会議併用）にて開催される予定です。

台湾「2025 Taiwan SatCom Summit」参加概要報告

XG モバイル推進フォーラム（XGMF）は台湾財団法人資訊工業策進会（III: Institute for Information Industry）より講演招待を受け、2025 年 10 月 17 日、「2025 Taiwan SatCom Summit」に参加しました。会場は台北世界貿易センターで、XGMF NTN 推進プロジェクト

リーダーの豊嶋守生氏（NICT）が講演を行いました。また、日本のスペースシフト CEO の金本成生氏、ポーランド SINOTAIC（Smart Secure Networks and Services／Polish IoT & AI Cluster）共同設立者の Marek Ostafil 氏も講演を行い、国際的な衛星通信・次世代通信の活発な意見交換が行われました。

講演前には、Taiwan Innotech Expo（TIE）内の衛星関連展示ブースを視察し、台湾の最新技術動向の調査を行いました。

1 MoU 調印セレモニー

本サミットでは、XGMF と III の間でデジタル発展省デジタル産業署署長の林俊秀氏立ち会いのもと、MoU 調印セレモニーを実施しました。XGMF からは豊嶋氏が代表代理として参加しました。



XGMF 中尾共同代表のビデオメッセージ



XGMF-III MoU 調印セレモニー

2 基調講演概要

XGMF の豊嶋氏は、「日本における次世代通信と NTN 推進」をテーマに講演し、日本の NTN（非地上ネットワーク）推進プロジェクトの概要、メガコンステレーション衛星、高スループット衛星（HTS）、異なる衛星プラットフォームの開発、衛星 IoT のユースケース、そして XGMF 活動に基づく将来ビジョンについて紹介しました。特に、2026 年を目標としたハイブリッド衛星の開発や、宇宙と 5G を統合した「宇宙イノベーション創出プラットフォーム」の構想について説明し、実証実験や地上局の運用状況についても紹介されました。

次に、スペースシフトの金本氏は、AI による衛星データ解析技術を紹介し、環境・農業・防災などへの応用例を提示しました。最後に SINOTAIC の Marek Ostafil 氏は、欧州における衛星通信の動向と、国際的な技術協力の重要性を述べました。

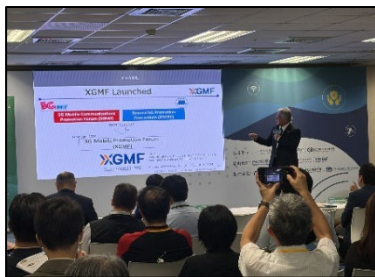
3 パネルディスカッション

「衛星アプリケーションサービスの需要と国際協力」をテーマとしてパネルディスカッションが実施され、XGMF の豊嶋氏、スペースシフトの金本氏、SINOTAIC の Ostafil 氏に加え、台湾企業からも意見が交わされました。主な議論内容は以下の通りです。

- 国際協力モデルの重要性：衛星データや技術を共有し、各国の強みを活かした協力体制の構築
- オープンソース・市民技術の活用：データアクセスの簡易化と中小企業・NGO への普及
- 国境を超えた戦略的アライアンス：データや資源の共有による効率的な技術導入と相互利益



Taiwan Innotech Expo
展示会場



XGMF 豊嶋氏講演の様子



パネルディスカッションの様子

4 総評

本サミットは、衛星通信分野における国際連携の強化と新たなビジネス機会創出に向けた重要な機会となりました。日本・台湾・ポーランドの企業・団体による講演やディスカッションを通じ、衛星通信・AI データ解析の技術共有、災害対応や海上通信などのユースケースの議論が深まりました。

第 345 回 技術委員会（放送分野）を開催

第 345 回技術委員会（放送分野）を開催しました。

- 1 日 時 : 2025 年 10 月 22 日（水）15 時 30 分～16 時 50 分
- 2 場所・形態 : 当会第 3 会議室（Web会議併用）
- 3 議 題 :
 - (1) 放送国際標準化ワーキンググループ活動報告について
 - (2) SET EXPO 2025の概要およびブラジルTV3.0の動向について
 - (3) IBC2025の概要について
 - (4) FoBTv Technical Committee会合について
 - (5) ARIB-DVB 会合報告について
 - (6) 第125回規格会議の開催について
 - (7) 各社からのトピックス
 - (8) その他

ARIB 内会合（10 月 27 日～10 月 31 日）予定

10 月 30 日（水）： 第 125 回 規格会議

イイノカンファレンスセンター

国際会合（10 月 27 日～10 月 31 日）予定

参加を予定している会合はありません。

5G & L5Gで飛躍する
MCPC
Mobile Computing Promotion Consortium

～設計構築にすぐ役に立つ～

**第7回
ローカル5G実践研修講座**
2025年12月4日(木)～12月5日(金)


 宮坂 敏樹
MCPC


 久保田 俊行
日本無線協会


 原 辰徳
NEC ネットエスアイ株式会社

第7回 ローカル5G 実践研修講座 開催のご案内

実証実験段階からいよいよ社会実装フェーズに入ってきたローカル 5G ですが、導入を考えている皆様が、設計構築しようとする際にすぐ役に立つ知識やノウハウを習得できる実践研修講座の第7回目を開催します。この講座を受講する事で、以下の導入から運用までのプロセスや最新動向、検討すべきポイントを習得することができます。

L5G 導入時の
技術要件理解

RedCap, TSN
最新動向把握

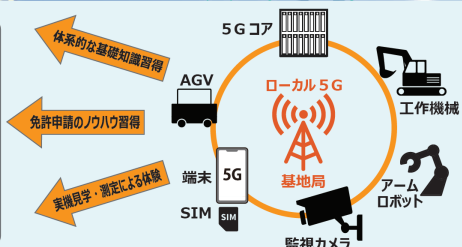
基地局導入
の流れ理解

免許申請・電波法の
理解

置局設計
システム設計

基地局7/24
の実機見学

電波環境
測定体験



【講座の特徴と講習内容】

ローカル 5G 導入検討中の方、ローカル 5G 構築のノウハウ習得を目指したい方を対象に、設計・構築に役立つ基礎知識や最新事例・最新動向、運用中のローカル 5G 機器類の見学や測定、基地局導入のイメージ明確化、電波法や電波申請手続きについて学びます。

初日は、基礎的な知識習得と事例紹介、導入までの基本的な流れの理解、基地局免許の電子申請手続き、測定法の説明を、二日目は、エリア測定やタイムスロット測定の体験、5G ラボ見学やジオラマ体験を行います。

【開催概要】 ～設計構築にすぐ役に立つ～ ローカル 5G 実践研修講座(11 時間コース)

今回の実践研修講座は、MCPC 会員の NEC ネットエスアイ株式会社様との共同開催です。

開催日: 2025 年 12 月 4 日(木) 9:00 ～ 12 月 5 日(金) 12:00 まで (1.5 日)

申込 URL: <https://ijuken.com/prod/user/mcpc-jp/public/>

申込の流れ: <https://www.mcpc-jp.org/license/entry/>

申込期間: 2025 年 10 月 1 日(水) ～ 11 月 21 日(金)

開催場所: NEC ネットエスアイ株式会社 新川崎テクニカルベース 6 階 601 研修室
〒212-0031 神奈川県川崎市幸区新小倉1番2号

受講料: <一般> 55,000 円(税込) / <MCPC 会員> 44,000 円(税込)

※会員割引でお申込をご希望される場合は、その旨(msec@mcpc-jp.org)までメールでご連絡をお願いいたします。

申込定員: 22 名 申込み先着順 ※ 定員になり次第申込みを締め切ります。



Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS
発行所

一般社団法人 電波産業会

〒100-0013 東京都千代田区霞が関一丁目4番1号 日土地ビル11階
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103
<https://www.arib.or.jp> E-mail arib_news@arib.or.jp